

日野市立教育センター一所報

教育センターだより

第22号 平成22年11月24日発行



2つの研究発表



米田教育長の講評

平成22年10月22日
調査研究事業中間報告会

日野市立教育センター

〒191-0042

日野市程久保550

TEL 042-592-0505

FAX 042-592-1148

開館時間 午前8時30分
～午後5時15分

「基本と先進の教育」のまち日野の教育センター

日野市教育委員会

教育長 米田 裕治



日野市はご案内のとおり「基本と先進の教育」のまちで
ございます。

その、基盤を支えていただいているのが日野市立教育セ
ンターです。

平成16年に開設され活動を開始して以来、一貫してこ
のことに努めてこられました。感謝申し上げます。

調査研究部においては、ICT 教育推進研究、理科教育推進研究、郷土教育推
進研究、ひのっ子教育21開発研究を精力的に進められております。学ぶこと・
学びあうことの楽しさを子供たちの腑に落とさせていただければ幸いです。

研修部では、職層に応じた研修、現職経験に応じた研修、教育課題研修、特
別課題研修を実施しています。教師のスキルはそれぞれの人・人柄（人の味）
の総合力に支えられた技であることを常に意識し、子供とともに教師自らが人
を磨き続ける姿勢を大切にさせていただければと思います。

相談部では、一般教育相談、学校生活相談に懸命に取り組まれています。時
代の状況を反映して子供たちを取り巻く背景・課題はきわめて深く且つ複雑で
あります。この状況の中で、子供たち一人ひとりのそして保護者一人ひとりの
願いに真正面から丁寧に粘り強く取り組まれているみなさまの毎日に頭が下が
る思いです。この取り組みは教育委員会、学校、専門家、教育センターがさら
にチーム力を高めていかなければならないものであります。みんなでひとつひ
とつ乗り越えていきたいと思ひます。

基本と先進の教育を支える活動を今後とも精力的に進められることをお願い
申し上げます、あいさついたします。

I 調査研究部

魅力ある理科授業の展開を目指して（理科教育研究委員会）

教科等教育係

新しい学習指導要領で理数教育の推進が指摘され、日野市では、日野市学校教育基本構想に基づき、日野市教育委員会の教育目標に、理科教育の充実が掲げられています。

理科教育推進研究委員会では、本年度の研究テーマを、「魅力ある理科授業の展開とひのっ子の基礎学力の向上」としました。また、本委員会が実施した平成20年度の調査で、「理科の勉強が好き」と答えた児童・生徒が80%前後に対し、

理科の授業に苦手意識を持つ小学校教師が約70%との結果が出ています。そこで、研究のサブテーマを、「理科支援センターを拠点とした教員研修の充実を通して」としました。

1 理科支援員配置事業・・・本年度は、小学校17校中、14校で実施しています。

元教員を含む20名が理科支援員です。

2 教員の研修

(1) **理科実技研修**：8月2日・3日に実施
会場は、日野第五小学校
両日とも、午前中は(株)富士電機ホールディングの方に、ものづくりを通しての電気についてご指導いただきました。

午後は、CSTを含む市内の3人の先生方に講師をお願いしました。理科授業の基本や新しい单元など、日々の授業に直接結びつく実験を行いました。また、理科ねっとわーくの活用についての研修も実施しました。

(2) **昆虫スキルアップ研修**：多摩動物公園との連携・・・4月と8月に実施しました。多摩動物公園の職員の方に、チョウを中心とした昆虫の生態、飼育方法の研修や野外実習を行いました。

3 理科実験室の整備・・・理科支援センターとしての役割を果たすべく、教育センターの理科実験室の施設の整備と、教材・教具の充実を進めています。

4 **CST(コア・サイエンス、ティーチャー)**・・・各校の理科授業充実を目指して、日野市の認定を受けた二人のCST派遣事業を実施しています。



郷土意識を育む指導の在り方～郷土の歴史・自然・文化・産業・人の教材化を通して～

1 今年度の重点課題

今年度の重点課題は、郷土教育の普及・啓発です。郷土教材を活用した授業は、具体的でよく分かり、体験学習や調査活動を通して楽しく学ぶことができます。日野市の小・中学校で、郷土教材を活用した授業がより多く実践され、「ふるさと日野」に誇りと愛着をもつ「ひのっ子」を育成することが大きな願いになっています。そこで、次の3点を重点課題としました。

- ①郷土日野に興味・関心と愛着をもった実践力のある指導者（教員）の育成
- ②図書館・博物館等、関係機関と連携した授業づくり
- ③開発した教材や実践事例を授業で有効に活用できるように、資料やデータを提供する

2 郷土教育を推進する指導者の育成

夏期郷土教育研修会（市教委共催）の実施

- ・午前 百草・倉沢地区フィールドワーク 百草図書館→旧松連寺山門・地藏堂→京王百草園、真慈悲寺発掘調査現場→百草八幡神社、国重文阿弥陀如来像、スタジイ群落→百草観音堂→真慈悲寺調査センター、出土瓦→由木農場、養鶏場・リンゴ園・ブルーベリー園→万蔵院台遺跡、古墳→市指定有形民俗文化財庚申塔4基、倉沢の里山→七生緑小学校
- ・午後 七生緑小学校で発表・講義・演習 ①百草・倉沢の自然・歴史 ②実践事例発表「カイコを育てる」「日野の縄文時代」「日野の昔話」 ③博物館・図書館の活用方法 ④郷土資料、教材化の視点、地形図の活用、まとめ

3 博物館・図書館との連携

- ①図書の学校搬送、職員の学校訪問等、学校へのサービス ②市政図書室、市民資料室の活用
- ③市刊行物「日野市史」「広報ひの」の活用、学校発行「周年記念誌」「地域副読本」の活用
- ④デリバリー博物館、出前授業、“火おこし体験”等の体験学習 ⑤日野郷土かるたの活用

4 郷土教材の電子データ化

教育センターホームページの充実・整備（PDF化）

- ・郷土日野指導事例 第1集～第5集 全ページが閲覧できる（図版がカラーで見られる）
- ・郷土日野画像図版資料集 第5集分が完成 写真や図表が、すぐ授業で使える

5 郷土教材を活用した学習活動

①第2学年 生活科「日野のやさい」

川辺堀之内地区の農家、栄養士と連携した授業で、地場野菜を活用した給食も教材化した。児童は、野菜にも「旬」があり、日野の野菜を給食で使うことよさ、農家の努力・喜び、野菜を作る楽しさを学ぶことができた。

②第4学年 社会・総合「新しい町づくり～多摩平の森と暮らしの変化～」

多摩平団地から多摩平の森への変化を調べ、人々の暮らしの変化を理解させる授業である。その郷土資料の入手は難しかったが、中央図書館との連携を深めて必要な資料を収集し実践している。児童だけではなく、教師自身の資料収集の課題を解決しながらの授業である。

③第3～6学年 社会・総合「日野の車窓から～社会科見学等で使える見学スポット～」

社会科見学等、地域への興味・関心を高めるための魅力ある見学スポットの発掘である。知られざる日野の魅力を開発し、どの小・中学校でも活用できるものである。今後、ねらいを吟味し、学習指導計画に位置づけていきたい。

6 今後の課題

3つの実践事例を紹介しましたが、現在、本委員会では次の実践資料を作成しています。今後「郷土日野 指導事例 第6集」に掲載する予定です。

- ①武士の世の中と落川遺跡の人々の暮らし ②梨園の継続観察と地域の農業
- ③平山陸稲と林丈太郎 ④旭が丘の昔発見 ⑤仲田の森に残る建物 ⑥浅川の橋と町の発展

ICT活用推進研究（ICT活用研究委員会）

教育経営係

本年度の調査研究課題について、現状を報告します。

1 平成23年度のリース切り替えに伴う環境整備の検討

ワーキングチーム（小・中学校の代表校長、代表副校長、庶務課、推進室）において、各学校に配備している機器やソフトについて、現状と成果や課題、23年度以降の環境について検討中です。

2 日野市独自『ICTマーク』の全校取得の推進

11月26日から12月1日に行われる「セキュリティ部門」の審査を皮切りに、「授業での活用部門」「校務での活用部門」の審査も順次行なわれます。

[審査内容]

「セキュリティ部門」・・・USBメモリー、セキュリティカードの保管・管理、私物パソコンのネットワークへの接続禁止、私物記録媒体が一切存在しないことなど10項目

「授業での活用部門」・・・授業での教師・児童の効果的な活用、情報安全教育への対応など5項目

「校務での活用部門」・・・校務支援システムの週案時数管理・成績管理、ひのっ子宝箱、掲示板機能の活用など5項目

3 『ICT活用実践事例集』の充実

昨年度作成の「実践事例集」に本年度の実践を追加します。小学校版は、更に掲載数を増やし、中学校版は、全教科の実践を複数集めて作成します。

ひのっ子教育21開発委員会研究（ひのっ子教育21開発委員会）

基礎調査研究係

今年度の「ひのっ子教育21開発委員会」は、日野市内の小・中学校から25名（小学校17名、中学校8名）の開発委員が集まり、講師として国立木更津工業高等専門学校の清水公男先生のご指導の下で実践的な研究活動が行われてきました。

来年度小学校学習指導要領に導入される「外国語活動」に備え、研究テーマを「小学校外国語活動と中学校英語の円滑な接続 ～小・中連携の視点を明確にして～」としました。

そして、今年度の活動の重点は、まだ小学校の指導実践が少ないことや小・中学校の指導のつながりや連携がほとんどない現状から、授業のあり方について、基礎的な知識を学ぶとともに、実際的な授業の研究を繰り返し行うことにおいてきました。経過としては以下のとおりです。

4～ 8月 講師の小学校外国語活動、中学校英語のあり方や接続に関する講義
外国語活動の授業イメージをつかむための模擬授業の実施

9～11月 ブロック提案による研究授業、及び研究協議会

「コミュニケーションを楽しむためのアクティビティの工夫」 9月 滝合小

「コミュニケーションをとりやすくする場面設定の工夫」 10月 大坂上中

「コミュニケーションに対する意欲的な姿勢を育てる工夫」 11月 旭が丘小

今後の予定としては、12月の三沢中学校の研究授業、2月の研究発表会（滝合小学校との合同）があります。また、本年度の委員会として、小・外国語活動、中・英語科の授業事例集をまとめ、日野市立小・中学校の教員の皆さんへ提供することを目標にしています。

Ⅱ 研修部

教員の資質向上を目指す研修部の活動

教職員研修係

教育委員会学校課で計画されている日野市立小・中学校教職員の年間研修会について、研修部所員6名が協力体制をとって行っています。それは日野市の教職員の資質の向上（特に若手の教員など）に大きく貢献しています。また、夏季休業中には教科専門研修をはじめ課題別研修が集中するため、6名の所員のほかに本来調査研究に当たっている所員の協力も得ています。特に、夏季休業中に行われた2・3年次教員の研修は授業についての助言を行い、若手教員の2学期以降の授業に役立つための研修となりました。以下、2・3年次教員の研修と4年次教員の授業観察について詳しく記載します。

1 2・3年次教員授業力向上研修

8月20日（金）に、日野市の2・3年次教員授業力向上研修が教育センターで行われました。

研修対象教員は72名です。前もって、72名を10グループに分け、さらにそれを5班編成にしました。後ほど、授業研究を班ごとに5回行うことになります。

さて、当日の研修は、「自己の授業の問題点の改善」をテーマに、事前に撮っておいた1学期に実践した授業DVDを各自持ちよりました。そのDVDを、グループ全員で視聴し、自己の授業の問題点、改善すべき点を自己評価の仕方を学びながら、検討を重ねました。そして、2学期以降の日々の授業を改善するための手立てを見出していきました。話し合いは、午前から始まり、お昼をはさみ午後3時までの長時間にわたりました。その後、講堂に全員が集まり、グループごとに授業の問題点、改善すべき点、改善する手立ての発表がありました。これらの研修を通して、改めて自己の日々の授業を見直す良い機会となりました。



2学期以降は、相互評価による授業改善を通して見出だした改善策を検証する研究授業が、それぞれの班ごとに順次実施されていきます。授業を公開するに当たっては、指導主事、教育センターの所員、他の教員からの、学習指導案、授業の進め方等について指導助言を受けて実施していく予定です。

2 4年次授業観察について

4年次の授業観察は、2・3年次研修を終了した経験4年目の全教諭が対象になっています。今年度の対象教諭は27名です。日野市教育委員会の指導主事と日野市教育センターの所員が協力して授業観察を実施していきます。対象教諭は、事前に教材解釈や指導方法について検討し、学習指導案を作成します。授業観察終了後、観察者は対象教諭と今後も継続していきたい指導方法はなにか、改善すべき課題はなにかについて話し合いをします。良かった点については、さらにのばすよう励ますとともに課題については、授業者が今後、意識しながら改善を図っていくよう指導していきます。この研修を通して、研修対象教諭一人ひとりが自らの課題を明確にし、意識化し、改善の手立てを見つけられるように指導助言を行っていきます。そのことがそれぞれの学校の「授業力」のさらなる向上に繋がっていくものと考えます。

Ⅲ 相談部

日野市教育相談室より

一般教育相談係

<前期における活動状況>

教育相談室では、日野市に在住する幼児・児童・生徒及びその保護者や学校関係者を対象に、子どもの不登校やいじめ、子育て等の課題解決の援助を目的にして相談活動を行っています。活動内容は、電話や来室による一般教育相談、子どもこころの電話相談、関係機関との連絡会や研修会等の実施です。

今年度、前期（4月～9月）には相談活動全体で963件の受付がありました。この多くは、電話相談を経た結果、来室相談となった56ケース（昨年度からの継続43ケースと新規受付13ケース）の相談です。各ケースの相談頻度は、相談内容の緊急度や改善状況等によって異なり、週に1回から隔週1回、月1回のケース等など、様々です。また、前期の相談活動の結果、13ケースについて相談が終結し、活動の目的を達成することができました。

<相談の傾向>

前期の面接相談56ケースのうち、相談主訴で最も多いのが不登校（20ケース）、次いで多いのが発達に関する相談（13ケース）で、両主訴による相談が全体の約59%を占めています。また、小・中学生が対象となっているケースが、47ケース（約84%）ありました。

この比率は、当相談室が受けて来たここ2・3年の相談において、各年度ともほぼ同様の結果となっています。ケース数は各年度によって異なりますが、日野市における一般教育相談の傾向といふことができそうです。

<さらなる連携と心豊かなひのっ子の育成>

当相談室では、日野市における一般教育相談の傾向や活動の評価を踏まえて、よりよい連携関係を構築し、適切かつ効果的な相談活動を進めるため、教育センター内や他機関等との連携を課題の一つに掲げています。センター内では、これまで随時行っていた学校生活相談係（適応指導教室）との相談・連絡を、組織的かつ定期的な連絡会に継続・発展させました。

学校とは、スクールカウンセラー連絡会や夏季休業中の10年経験者研修、生活指導主任研修会等とおして、情報提供や専門性を提供しつつ教育相談の普及に努めています。12月の生活指導主任研修会では、具体的な相談活動の紹介もさせていただく予定になっています。また、前期・後期に分けて、健全育成や適応指導教室の担当者とともに市内の各小・中学校を訪問し、さらなる連携を図っています。同時に、特別支援教育推進チームとの連絡会や子ども家庭支援センターや児童相談所等の訪問を計画的に行い、専門機関との連携も進めています。

今年7月、日野市では、学校教育における重要課題の一つである不登校問題に対し、総合的な対応を図るとして、日野サンライズプロジェクトを発足させました。当相談部からも一般教育相談の状況や適応指導教室、eラーニングの実施状況等を報告させていただいています。

当相談室は、日野市の学校教育上の課題や市民のニーズに的確に応え、心豊かなひのっ子育成への貢献を目指して、関係機関等とのよりよい連携関係のもとで、専門性の高い教育相談機能を発揮できるように取り組んでまいります。

学校生活相談

不登校児童・生徒と適応指導教室「わかば教室」

学校生活相談係・わかば教室

学校生活相談係は、心因的要因やさまざまな状況によって不登校や登校しぶりの子ども達を適応指導教室「わかば学級」で受け入れ、学習や生活の指導及び支援を行っています。また、市内各学校が抱える不登校問題の状況把握・情報提供を行っています。

児童・生徒の学校生活は、安全で、健康的で、明るく落ち着いた雰囲気です。一人一人が意欲的に生活や学習に取り組めることが大切です。「学校生活相談係」は、その達成に向けた支援が使命だと考えています。しかし、現在の学校生活における子ども達の課題はさまざまです。その複雑な課題に対して、学校と連携し、また諸機関・保護者とも関係を密にし、改善を図っています。

心のケア・学力向上・体力増進・社会性の育成等を図るため、一人ひとりに対応した指導計画を立てています。相談活動を充実させ、楽しい行事を行うなど、人間関係を深め、実践力を培い、児童・生徒の活力向上を図り、学校復帰を目指した活動に取り組んでいます。

日野市長期欠席児童生徒調査より

(1) 不登校による30日以上欠席した人数の変遷

年 度	小学校	中学校	合 計
平成17年	74人	120人	194人
平成18年	68	130	198
平成19年	83	148	231
平成20年	90	155	245
平成21年	88	164	252
平成22年10・1現在	51	86	137

(2) 平成21年度調査より100日以上欠席者

小学生47人 中学校101人 合 計 148人 *各校5日以上欠席者調査より

(3) 適応指導教室「わかば教室」通級の状況

平成21年度	4月30日	小学生	10人	中学生	24人	合計	34人
	9月30日	小学生	8人	中学生	24人		32人
	3月25日	小学生	8人	中学生	27人		35人
平成22年度	4月30日	小学生	5人	中学生	10人		15人
	9月30日	小学生	8人	中学生	16人		24人

日野市における不登校児童・生徒数は、毎年増加しています。その中であって、わかば教室から学校に復帰し、元気に通学している児童・生徒がいます。また、高校へ進学した生徒も殆どの子が元気に通学しています。学期・学年の変わり目は復帰できる大きな契機です。小さな変容を大切に、その子なりの生きる力を育み、不登校改善、更に学校復帰へとつながるよう保護者・学校や諸機関と連携を図り、新たな不登校児童・生徒の発生も防ぐ努力を続けています。

学習支援・登校支援 e-ラーニングを実施しています

- 1 “わかば教室”の児童・生徒を対象としたe-ラーニング(月曜日・水曜日)
☞ “わかば教室”見学の児童・生徒は、e-ラーニング体験ができます。
- 2 在宅(家庭)の児童・生徒を対象としたe-ラーニング
☞ 自宅でe-ラーニングを始めるには、まずは、在籍校に相談し日野市e-ラーニング「ひのっ子学習システム」利用の手引きに沿って手続きをしてください。
教育センター在籍の登校支援員とe-ラーニング担当所員が個別学習支援をしています。

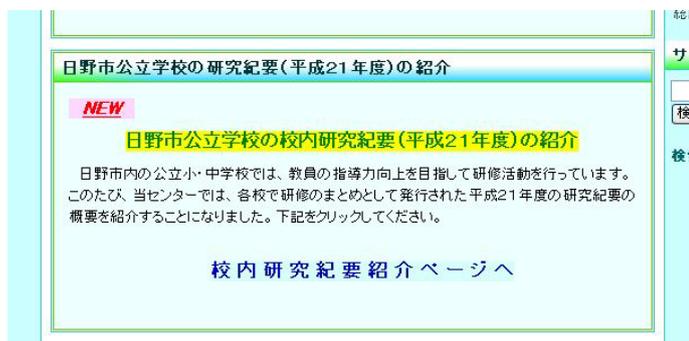
センターの Web サイトで、市内各校の研究収録・紀要を紹介しています

日野市立教育センターは、学校へ必要な情報を随時提供できる“情報センター”としての充実を進めています。

日野市内の公立小・中学校においては、教員の指導力向上を目指して研修活動を行っています。このたび、当センターの Web サイトにおいて、各校で研修のまとめとして発行された平成

21年度の研究集録・紀要の概要を紹介することになりました。下記の URL アドレスよりご覧ください。

日野市立教育センターのアドレス <http://www.hino-ky.ed.jp/center/>



また、市内の教職員につきましては、研究集録・紀要を PDF ファイルで提供いたします。日々の授業作りや校内授業研究にお役立てください。

新しく購入した本の紹介

- | | | |
|------------------------------------|----------------------|--------|
| ・まんがで読む八王子歴史物語 第1巻 | 新藤恵久監修 松田純 | 揺籃社 |
| ・甲州街道 一街道を歩く- | 大高利一郎著 | 揺籃社 |
| ・我が国と郷土を愛する態度を育てる授業づくり | 武蔵村山市教育委員会編著 | ぎょうせい |
| ・わくわく道徳資料集 低学年(新版) | 押谷由夫監修 植田清宏著 | 東洋館出版社 |
| ・わくわく道徳資料集 中学年(新版) | 押谷由夫監修 植田清宏著 | 東洋館出版社 |
| ・わくわく道徳資料集 高学年(新版) | 押谷由夫監修 植田清宏著 | 東洋館出版社 |
| ・Q-U式学級づくり(小・中・高学年) | 河村茂雄・浅川早苗他編著 | 図書文化社 |
| ・Q-U式学級づくり(中学校) | 河村茂雄・粕谷貴志他編著 | 図書文化社 |
| ・高機能自閉症・アスペルガー障害・ADHD・LDの子のSSTの進め方 | 田中和代・岩佐亜紀著 | 黎明書房 |
| ・写真で教えるソーシャル・スキル・アルバム | ジェド・ベイカー著 | 明石書店 |
| ・セラピスト誕生 一面接上手になる方法- | 東 豊著 | 日本評論社 |
| ・まずい面接 マスターセラピストたちが語る最悪のケース | ジェフリー・A・コトラー編著 | 金剛出版 |
| ・子ども虐待対応の手引き(21年度) | 恩賜財団星愛育会日本子ども家庭総合研究所 | |

○本センター内教育図書資料室でご覧いただけます。また、市内教職員につきましては貸出しいたします。電話、または校務支援メールでお申し込みください。交換便でお送りします。